



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目次

ラーニング・commons全面オープン!	1
ラーニング・commonsの利用	3
2009 年秋季特別展	
「学校沿革史は語る — 近代日本の中等学校と 名古屋大学の前身校 —」を終えて	4
図書館をよくする学生アイデアコンテスト報告	5
ホームカミングデー図書館行事	7
「本のリユース市」— 図書館の再生を願って—	8
利用者から見た図書館	9
新しいOPACとMyLibrary	10
本学教員著作物の寄贈リスト	11

ラーニング・commons全面オープン!

昨年度から2年計画で中央図書館2階に整備を進めてきたラーニング・commonsが11月末に完成し、12月から全面オープンしました。また、12月8日には、濱口総長、山本副総長はじめ、各研究科長、文部科学省等をお招きして完成披露式を行いました。



完成披露式

ラーニング・commonsは、学生の多様な学習ニーズと学習形態に対応した新しい学習教育支援環境を提供するというコンセプトのもと、さまざまな工夫をこらしています。

これまでの図書館は、「静かな空間」でした。これを大きく転換し、ラーニング・commonsである2階を「話し声が聞こえていい空間」とするとともに、2階以外のフロアは静粛空間を維持し、目的によって使い分けられるようにしました。

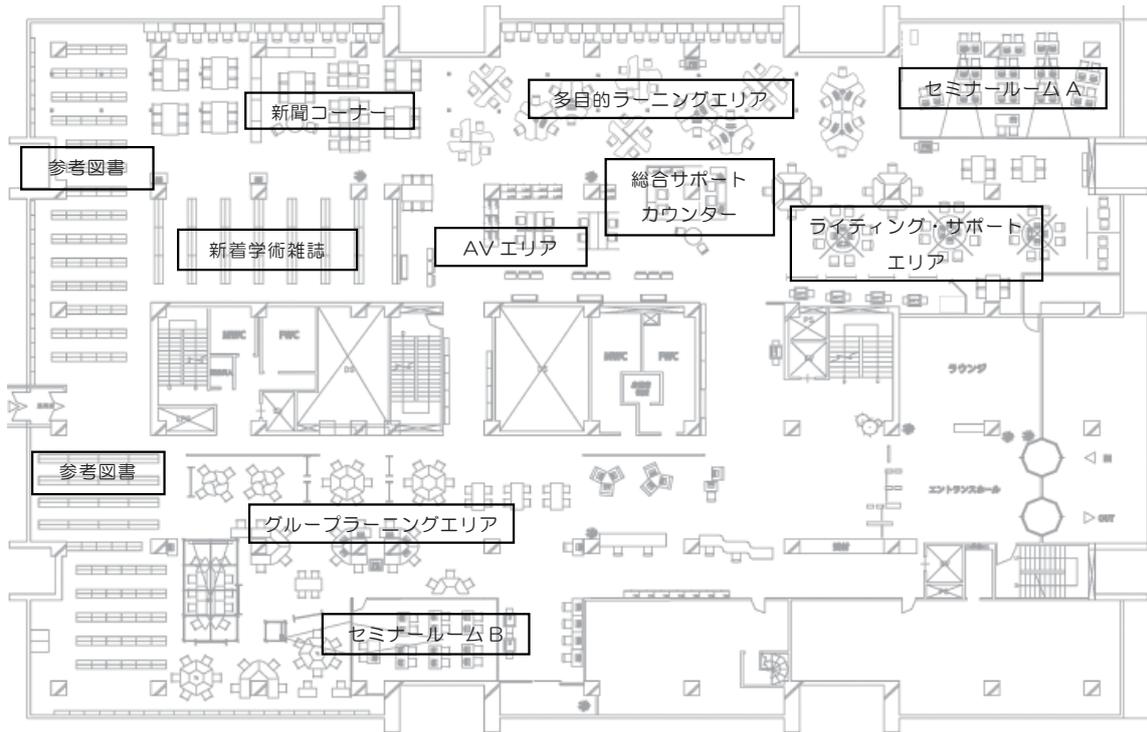
ラーニング・commonsのフロアの構成は、グループラーニングエリア、多目的ラーニングエリア、ライティング・サポートエリア、AVエリア、セミナールーム、学生相談コーナーと、参考図書、新着学術雑誌、新聞コーナー、そして総合サポートカウンターです。フロア設置のPCのほか、全フロアで無線LAN (NUWNET) が利用できますので、自分の持ち込みPCでインターネットにつないで作業するといったことも可能です。

総合サポートカウンター

総合サポートカウンターには、ITサポート、学習支援、ライティング・サポートなどをおこなうサポートスタッフを配置し、ラーニング・



総合サポートカウンター



コモンズを快適に利用するためのサービスを提供していきます。当面はITサポートと学習支援が中心になりますが、4月からはピアサポートの拠点のひとつとして、ピアサポーターも活動する予定です。

グループラーニングエリア

少人数のグループワークができるエリアです。議論や共同作業などに便利です。2か所にプロジェクターを設置していますので、プレゼンテーションの練習や、輪講などにも活用できます。このエリアの机やイスは移動可能なものを用意し、グループの人数や学習内容に応じて集めたり分散したりするなど、組みかえて利用することができます。



グループラーニングエリア

多目的ラーニングエリア

PCを利用しながら、資料も余裕で広げることのできるデスクを設置しています。紙の資料と電子資料の両方を使いながらレポートをまとめたり、相談しながらそれぞれの作業をしたりと、いろいろな利用の仕方ができるミニオフィスのスペースです。



多目的ラーニングエリア

ライティング・サポートエリア

論文やレポートの作成など、サポートスタッフの支援を受けながら、2人で作業のできるワーキングデスクを設置しています。このエリアに設置してあるPCでは、文章作成ソフトのほか、グラフィックソフトも使えるようになっています。

12月22日(火)には、佳作受賞者3名を含む応募者9名を中央図書館に招いて表彰式・懇談会を行いました。佳作の3名には附属図書館長から賞品が授与されました。昼食をとりながらの懇談では、提案されたアイデアについての質疑がおこなわれたり、学生から図書館に対する率直な感想や意見・要望が出されたりするなど、有意義な時間を持つことができました。

附属図書館では、寄せられたアイデアを参考にして図書館の改善に活かすとともに、次年度以降もコンテストを継続する予定です。

《コンテスト入賞アイデア紹介》

図書館における学生間交流の促進に向けての 提案 文学研究科 都築 由子

図書館が学生同士の出会いや交流の場になればと考え、特に他分野専攻の学生、留学生とも互いの考えや文化を知り合うきっかけになればと考え、その交流の手段として音楽会や朗読会の開催を提案しました。具体的には、誰もが通る2階にスペースを設けて、誰もが自由に気軽に参加できる形式の企画開催を想定しており、音楽会であれば、図書館がオーケストラサークルなどの音楽サークルや個人が演奏をする場を提供します。ある時間帯にコンサートが行われれば、演奏者にとっては日頃の練習を発表する機会となるだけでなく、聴衆者にとっては「癒し」の効果ともなり、図書館がより居心地のよい空間となるのではないのでしょうか。

また、朗読会は17世紀から19世紀頃にイギリスやフランス等で行われていた文学サークルを公開で行うという形式の企画で、より適切に言うならば学生意見交流会です。使用テキストは文学作品に限らず、心理学や哲学等の幅広い分野のテキスト、文献が朗読または発表され、また使用言語に関しても、留学生も交えて様々な言語で行われるのが望ましいと思います。朗読会を通して、日本人学生と留学生、他分野の学生、他専攻の学生同士の交流が促進され、それぞれが自分の考えを発信し、別の観点を知り、互いに知的刺激を受けることになればと考えます。朗読会で取り上げられるあるテーマを軸に、

学生同士が自らの得意分野を生かして意見を言い合い、別分野の考えを学ぶことにより、視点が広がり、時として自分の勉強研究において新たな糸口を見出すきっかけになります。全然関係のないと思われたところに何らかの接点を発見でき、それを発展させることもあるでしょう。このように学生間交流を進め、学生の「学び」に積極的に関わることは今の図書館に期待される役割ではないでしょうか。

大学図書館の新しいwebページ

環境学研究科 中山健次郎

インターネットの進化に伴い、図書館でのIT化も進んでいる。当然、名古屋大学の図書館webページの改善も必至である。そこで、私は新しいコンセプトを持った図書館webサイトを提案した。

提案の前に、従来からある本に関するwebサイトを見る。

Webサイト初期段階：

ほとんどの図書館がそうだが、利用者が各々のログインページを持ち、本の貸出情報、本の紹介ページから情報を得ることができる。(名古屋大学ではこれもできていない…)

発展段階：

amazonやwikipediaのように、本の情報やレビューが読者から書き込まれ、関連図書がリンク付けされる。

今回の提案は、この発展段階にプラスしたものである。本についての議論ができ、細かな情報(その本を取り扱った講義情報)などを盛り込んだ、“大学内のみのコミュニティーサイト”である。

利用者はID番号を明記してから、自分の意見を述べ、情報を投稿するため、大きなトラブルはないだろう。

また、このサイトには個人がログインして入るMyPage方式ではなく、本1冊に1つのwebページを持たせる。名古屋大学の所蔵図書数は膨大であり、webページを作るのに膨大な労力が必要となるが、こうした、“1冊=1webページ”ならwikipedia方式により、webサイトは自由に広がり手間が掛からない。

《利用者から見た図書館》

活字離れとネット世代

栗田陽子

「大学生になってよく図書館の文献を利用するようになったなあ」としばしば思う。

小・中学生の頃は活字が嫌いで、教科書か、読書感想文のためにしか本を読まないような子どもであった。高校の頃は一時ブームであった「世界の中心で愛をさけぶ」、「恋愛写真」などの流行物を少し読むようになったくらいだったが、図書館で本を借りるなんて頭の中にはこれっぽっちもなかった。大学に入って、教科書ではわからない箇所があったり、調べ物をしたりするとき最初にうちはネット検索に頼っていたが信頼性にかける情報にいつまでも頼り続けるのはいかなものかと思い、図書館に足を運ぶようになった。Yahoo、Google 検索に頼る人は沢山いるだろう。それが、いけないことだとは思わない。ただ、研究の最新の情報などは確実に図書館の文献のほうが上回っていると感じた。

図書館の印象といえば、静かで少し埃っぽいイメージ。咳払いさえもためらわれる様な館内。みなさんは多少なりとも緊張してしまった経験はないだろうか。目が回るような数の本が並んだ少し埃っぽい本棚、なんとなく手にとっても読む気のしない分厚い文献、意味の解らない専門用語の並んだ最新の雑誌。どれも、きっと自分の財産となってゆくものなのだろうなとは思ったがなかなか読めない。だが、迫ってくるレポート、テスト。そんな学生は多いと感じる。

初めは調べたい資料が見つからず、四苦八苦して見つけた本の中からまた必要な情報を抜き取るという作業をひたすら行い、理解する。しかし、その作業で得たものは大きかった。未だに、電子ジャーナルや、図書館に置かれている論文を調べ、読む力はないが、図書館の文献を利用する頻度は格段に増え、実際授業へのやる気も上がった。資料を探すのに一苦労、その中から必要な情報を探すのに一苦労、それを理解するのに一苦労。ここまでやったら、やるしかない。という感じであろうか。元々勉強自

体は好きだったので、そのときに勉強していた解剖学の本を読み漁った。図書館の利用期限の二週間では足りなくて結局買った本もあった。だが、専門書は高い。しかし、図書館には専門書が山ほどある。様々な観点、様々な人が書いているので内容は似ているようで違うし、その人に合ったものがあるであろう。時には、文献同士を見比べたりすることもある。これは図書館にこれだけの本があるから成せることだ。図書館は、お金のない学生にはもってこいの場所なのだ。

今では、図書館のアルバイトをして、電子ジャーナルや、自分の探したい本を見つけられるように日々パソコンに向かい、図書館の利用者さんと話し、努力している。そうすると、いかに図書館で目的の資料を見つけることができている人が少ないのかが分かる。もう少し分かりやすくなれないものかとも思うが、文献が膨大なため仕方がないことなのかとも思う。パソコンにも、図書館の仕組みにも全く無知のため分からないが、分からない側からすると、「分かりにくい」としか言いようがない。分かるようになったら、「是非こんな調べ方もあるんですよ〜！！」と言って回りたいものです。

最後に一つ言いたいことがある。授業で、先生があげた参考書や関連のビデオ、文庫本からでもいい。なにかきっかけを自分から作って是非私のような活字ばなれ、活字嫌いな人は図書館を活用することに一步踏み出してほしいと「今でも活字が苦手な私」は思う。嫌いから苦手へのシフトが大切だと思うからだ。

(くりた・ようこ 医学部保健学科4年)

新しいOPACとMyLibrary

ー 1月から図書館システムがリニューアルー

図書館システムの更新により新しいOPACでは、機能が増えました。ご利用ください。

新しい機能

- ・雑誌タイトルリスト
- ・分類検索
- ・新着図書案内
- ・MyLibrary：自分用にカスタマイズできる図書館ウェブサイトです。

その他の変更

- ・Webで図書の予約を申し込める図書館/図書室が増えました。
中央館・医・医保健・教育・経済・情言・工・農・国際開発・数理
- ・私費でのILL申込（資料の取り寄せ）の事前申請が不要になりました。

新OPAC キーワード検索画面



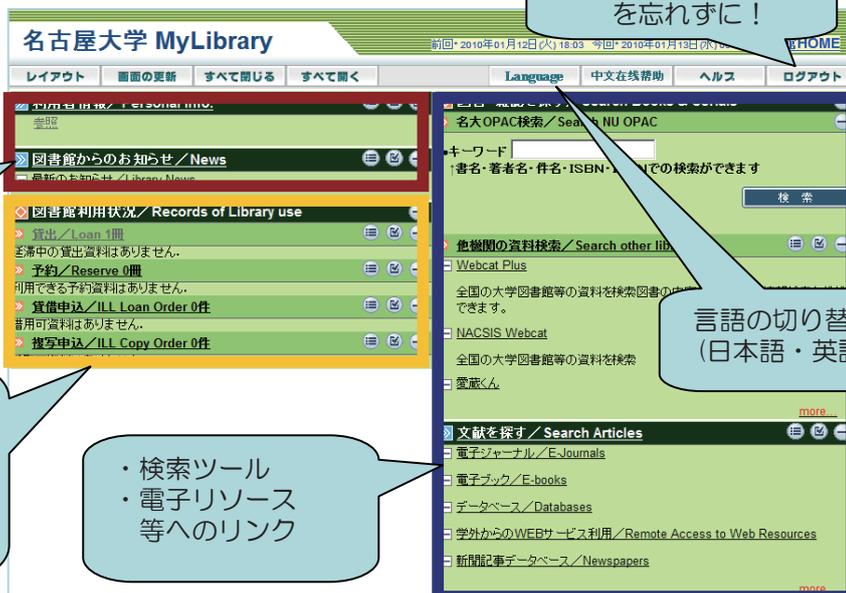
名古屋大学ID・パスワードでログイン

- ・図書館のWebサービスは、名古屋大学IDに一本化されました。（全学IDは不可）

MyLibraryの主な機能

- ・貸出・予約中資料の確認
- ・ILL（資料の取り寄せ）の確認
- ・利用者情報の確認、更新
- ・ブックマーク、メモ
- ・レイアウトの変更など

MyLibrary トップ画面



利用者情報確認
連絡先の変更
図書館からのお知らせ

利用状況の確認
貸出（延滞、期限）
予約
ILL貸借申込
ILL複写申込

検索ツール
電子リソース等へのリンク

最後に[ログアウト]を忘れずに！

言語の切り替え（日本語・英語）

本学教員著作物の寄贈リスト

中央図書館では、教員著作物等を積極的に収集しています。平成21年9～12月は下記の図書を寄贈していただきました。ここにあらためてお礼申し上げます。

(寄贈者の敬称は略します。)

所 属	寄贈者名	寄 贈 資 料 名	資料 I D	配置場所
教育発達科学 研 究 科	吉田 俊和	社会的迷惑の心理学 / 吉田俊和, 斎藤和志, 北折充隆編 - 京都: ナカニシヤ出版, 2009. 9	11682462	中央学 3 F 361.41/Y
医 学 部 保 健 学 科	島本佳寿広	クラーク X 線撮影技術学 / ホワイトリー [ほか] 編著; 島本佳寿広 [ほか] 監訳 - 東京: 西村書店, 2009. 11	11688257	中央学 3 F 492.43/W
名 誉 教 授	塩澤 君夫	歴史発展の法則 / 塩澤君夫著 - 東京: 創風社, 2009. 10	11688256	中央学 3 F 201/Si
留 学 生 セ ン タ ー	舩山 洋介	日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学 / 舩山洋介著 - 東京: 研究社, 2009. 7	11687286	中央学 3 F 801/Mo
教育発達科学 研 究 科	松本真理子 森田美弥子	子どものロールシャッハ反応: 形態水準と反応内容 / 鈴木伸子 [ほか] 著 - 東京: 金剛出版, 2009. 10	11689644	中央学 3 F 371.45/Su
医 学 部	榊原 章浩	世界漕艇物語 / クリストファー・ドッド著; 榊原章浩訳 - 仙台: 東北大学出版会, 2009. 9	11687285	中央学 3 F 785.5/D
国 際 開 発 研 究 科	山田 肖子	国際協力と学校: アフリカにおけるまなびの現場 / 山田肖子著 - 東京: 創成社, 2009. 11	11690395	中央学 S 372.4/Y

(資料管理掛)



